

妊娠・子育てから終末期ケア・長寿研究に至るまで  
関心の高い情報を網羅!

# 発達心理学 事典

日本発達心理学会 編／[編集委員長] 氏家 達夫 名古屋大学  
A5判・600頁 定価21,000円(本体20,000円)  
ISBN978-4-621-08579-0

赤ん坊から高齢者まで、幅広く人の一生涯の「発達」を扱い、どのように支援したらよいかを扱う実践的な学問、発達心理学。学習障害やDV、失業、育児放棄、介護といった近年関心の高いトピックスも多数収録。さらに障害児者や虐待・災害にあった人への支援に関する項目も設けた。また人間が生まれながら発達させていく知覚・言葉・人間関係の獲得などについても、必要に応じて胎児まで遡った最新の研究成果を紹介。「葛藤」や「悩み」「関わりあい」についても章を設け解説し、発達心理学の視点から多角的に人間の不思議に迫るユニークな中項目事典。

## [編集委員]

岩立志津夫 日本女子大学[日本発達心理学会出版企画委員会委員長]

尾見 康博 山梨大学

子安 増生 京都大学[日本発達心理学会理事長]

佐藤 有耕 筑波大学

杉村 和美 広島大学

外山 紀子 津田塾大学

長崎 勤 筑波大学

根ヶ山光一 早稲田大学

能智 正博 東京大学

南 徹弘 甲子園短期大学

村井潤一郎 文京学院大学

丸善出版

本事典が刊行される2013年に、日本発達心理学会は設立25年目を迎えることとなる。この間、発達研究は、わが国においても、また世界的に見ても、急速に発展し、膨大な研究知見が生み出されてきた。発達心理学は、今や人生のすべての時期の人々が発達研究の対象となっているし、発達研究は、発達心理学の枠の中で完結できるものではない。発達現象を正しく理解しようとするれば、発達心理学だけでなく、進化科学、比較行動科学、行動遺伝学、脳科学などの関連する諸科学の知見や方法を参照せざるを得なくなってきた。

本事典は、発達を学ぼうとする学生や発達に関わる活動をしている方々に、関連領域を含めた現在の発達心理学の全体像を的確に示すと同時に、まさに発達しつつある発達心理学のおもしろさや重要性をビビッドに伝えることをめざして、日本発達心理学会が総力を挙げて編集するものである。

本事典は、人の行動を25個の動詞で捉え、それぞれの動詞に関わる発達心理学と関連領域の重要な研究トピックを選び出して解説した。解説する項目の多くは相互に密接に関連している。ある項目を読むことで、関連する他の項目を参照したり、もっと先を調べてみようと思ってもらえたりするような事典になることをめざした。また、単なる「辞典」として「解説」するのではなく、専門家にも読み応えのあるような「事典」になることをめざした。今もダイナミックに成長し続ける発達心理学を大掴みに読者に示すことはできたと自負している。また、さまざまな領域で行われている発達研究の見取り図を提供することにもなるとすれば望外の喜びである。

2013年3月吉日

日本発達心理学会 発達心理学事典編集委員会  
編集委員長 氏家 達夫

### 2. 移動

えで、運動形態の出現時期とその順番が重要な意味をもつようになる。そこから外れるものは「異常」した発達であると理解されるようになる。

一般的な運動発達プロセスが概観された。次にこのプロセスの検討が深められた。特に検討されたのは移動である。子どもが歩けるようになるには何が重要なのか。一つの回答として、脚部の筋力とバランスコントロール能力があげられる (Boh & Brenner, 1992; McGraw, 1993; Thomas & Ulrich, 1991)。姿勢・姿勢・姿勢と移動が行った時に筋力と姿勢の安定がなくてはならない。

●移動・移動への生物学的アプローチ このように移動発達には生物学的構造の成熟が必要不可欠である。くわえて、姿勢の変化や移動によって生じる視覚や身体姿勢の変化を捉え、それに合わせて動きを調整する能力も運動スキル発達のには含まれるべきである。つまり、知覚・行為が密接に作用することによって運動の適応が行われるのである (見: Gibson, 1987; J.J. Gibson, 1977/1985)。こうした考え方に基づいて、知覚・行為アプローチとよばれる (Holman, 1989; Reed, 1982)。また、運動スキルの発達には知覚覚性のほかにも、認知、情動、学習、社会性といった心理的機能との関連性が指摘されている (Adolph & Berger, 2011)。

このように考えていると、環境との相互作用が移動・移動の発達に関与していることが見て取れる。新たな運動スキルの獲得には、援助的な社会的文化が重要な役割を担っている (Taniie-LeMonda & Adolph, 2005)。援助的な社会的文化とは子どもを体支える養育者の手や子ども自身の体支えるために利用できるモノであり、さらには広い意味では、社会的文化的コンテクストを反映した移住や移住が考えられる。例えば、ハイハイを移動の有用なものとしてきた文化では、子どものハイハイに同調的に働きかけるもの、ハイハイをしないまま歩行の獲得にいたることが報告されている (Hopkins & Westra, 1989)。また、狩猟採集社会を営むアマチュア職では、危険から守りながら子どもの行動範囲を拡大させ、その結果として歩行開始時期は23~25か月齢と遅い。しかし、その後成長していく8mの木の木を自在に登るようになる (Kaphan & Dove, 1987)。これらはいわゆる移住の発達プロセスから「適応」とみなされるものでもある。しかし、姿勢・移動についての異常が常態を一元的に説明することは難しい。

図1 乳児の運動発達の体系的図解 (Adolph et al., 2010, p. 101)

### 自己効力 (自信)

●自己効力の概念の理解 自己効力とは自己の行動を成功させる能力、努力の持続性があること、意欲の持続性など、その行動を成功に導くことと見なされる。自己効力は、個人が特定の行動を成功させることができるかどうかを信じている程度を示す。自己効力は、個人が特定の行動を成功させる能力、努力の持続性など、その行動を成功に導くことと見なされる。

●自己効力の概念の理解 自己効力とは自己の行動を成功させる能力、努力の持続性など、その行動を成功に導くことと見なされる。自己効力は、個人が特定の行動を成功させる能力、努力の持続性など、その行動を成功に導くことと見なされる。

項目	内容
自己効力の概念	自己効力とは、個人が特定の行動を成功させる能力、努力の持続性など、その行動を成功に導くことと見なされる。
自己効力の形成	自己効力は、個人が特定の行動を成功させる能力、努力の持続性など、その行動を成功に導くことと見なされる。
自己効力の測定	自己効力は、個人が特定の行動を成功させる能力、努力の持続性など、その行動を成功に導くことと見なされる。
自己効力の発達	自己効力は、個人が特定の行動を成功させる能力、努力の持続性など、その行動を成功に導くことと見なされる。

図1 運動における自己主体の機能 (氏家, 2010, p. 29-31)

### 3. 知覚

#### 3.1 知覚と知覚

障害をもたない人 (以下、定型発達児) の知覚に、例えば錯視のようなさまざまな法則が存在することは、多くの研究で明らかにされている。地方これまでの多くの研究は、自閉症児にそのような法則が見られないことから、その知覚の障害 (劣性) を論じてきた。しかし近年の当事者 (特に高機能自閉症児) の伝言などから、自閉症児の知覚は必ずしも劣性ではなく、独自の法則もつていかに発達している。ここではそれを3つの点に挙げてみる。

●弱い全体性統合 「本を見て鳥を見ず」という諺がある。物事の細部に注目しすぎて、全体を把握できないことである。この意味するところは、自閉症児の知覚の特徴である弱い全体性統合にもあてはまる。ジグソーパズルといえば定型発達児の多くは、絵柄や外枠の外枠からつらうとする。なぜなら全体を統合する視覚的意味は絵柄や外枠からつらうとする。一方自閉症児は、個々のピースの形に注目し絵柄と同様中央のピースからつらう始める傾向がある。これは、絵柄や外枠という視覚的意味より細部の処理を優先する——全体性統合が弱い——ために生じると考えられている (Fombonne, 2003/2008)。これは脳の機能的記憶はすべてに、全体を統合した意味であるストーリーや概念の理解に困難を示すこと、対象を文脈内からとるため定型発達児では生じるエピソードハウスの機能が自閉症児においてはみられないことにも見られる。この特徴は、風景を一掃するだけで細部をそのままだけに捉える能力 (例えば、イギリスで絵巻を発表しているステイブーン・ウィルトシャー) や、膨大な量の年長や若い同僚などを記憶できるサヴァン症候群の能力の基盤ともなっている。

●感覚過敏と感覚鈍麻 高機能自閉症児の自伝 (例えば、ニキ・藤家, 2004) は、彼・彼女が、定型発達児と大きく異なる感覚過敏・感覚鈍麻をもっており、それで苦しんだり楽しんだりする独自の世界をもつことを明らかにした。それは例えば、①聴覚過敏 (例: 聴覚の鋭い聴覚など、突然の音に耳が痛い)。②視覚過敏 (例: うちから突然光るような色や線の粗さが強い)。③触覚過敏 (例: 気や温度の変化で身体不調になる。身体が壊れがちな)。④嗅覚過敏などである (高橋・増田, 2008)。

●感覚過敏・感覚鈍麻は、自閉症児の生活に大きな困難をもたらす。なぜなら、定型発達児には何でもない感覚刺激が自閉症児にはトラウマになるほど不快

図1 運動における自己主体の機能 (氏家, 2010, p. 29-31)

## ● 分野別項目リスト ●

### 1 かたる [編集委員:能智 正博]

概念と語彙／出来事の語り／自己と語り／ファンタジーの語り／ことばのおくれ／対話／バイリンガル／供述・証言／ライフストーリー／ライフレビュー

### 2 かんじる [編集委員:外山 紀子]

乳児の知覚研究法／物理現象の知覚／空間知覚／身体運動知覚／顔知覚／数の知覚／多感覚の発達／生態学的知覚／嗜好の発達／自閉症と知覚

### 3 ふれる [編集委員:根ヶ山 光一]

抱き／三項関係／移行対象／授乳・離乳／アロマザリング／タッチング／アフォーダンス／バーチャルリアリティ／セクシャリティ／介護

### 4 かんがえる [編集委員:子安 増生]

思考／概念形成／仮説検証／意思決定／認知スタイル／実行機能／状況の認知／操作的思考／他者視点／発生的認識論

### 5 いきる [編集委員:根ヶ山 光一]

食行動／睡眠／姿勢・移動／音楽性／遊び／事故／攻撃／時間／宗教性／生と死

### 6 まなぶ [編集委員:外山 紀子]

発達と学習／知能／学校での学び／協調学習／学びの個人差／動機づけ／学力と格差／計数・算数／読み書き／早期教育

### 7 そだてる [編集委員:氏家 達夫]

地域の子育て／コーチング／やる気／創造性／パーソナリティ／才能と知能、学力／乳幼児と親子関係／児童・青年と親子関係／親を育てる／子別れ

### 8 おいる [編集委員:南 徹弘]

加齢と寿命の生物学／身体特性の加齢／3世代の親子関係・家族関係／中年の危機／加齢と老化／高齢者の社会的適応／高齢者の心理・性格特性／百寿者研究のねらい／高齢者の終末期ケア／死と死にゆくこと

### 9 あいする [編集委員:村井 潤一郎]

愛着／親子関係／夫婦関係／友人関係／恋愛関係／同性愛／自己愛／ドメスティック・バイオレンス／妬みと嫉妬／愛と憎しみ

### 10 はずれる [編集委員:氏家 達夫]

規格外であること／マイノリティであること／自分であることの違和感／問題行動／犯罪／病を得るということ／差別を受けるということ／キャリアの挫折／はずれることの積極的意義

### 11 かかわりあう [編集委員:佐藤 有耕]

人見知り／共同注意／基本的信頼／ソーシャルスキル／仲間関係・仲間集団／メディアと子ども／対人関係の希薄化／感謝／世代間関係／孤独感

### 12 うまれる [編集委員:南 徹弘]

系統発生と個体発生／発達における遺伝と環境／遺伝性疾患の発達と予後／妊娠・出産・誕生／妊娠中の疾患／生まれるとき／ふたご研究のゆくえ／超低出生体重児の予後／家族の起源／親になること／親をすること

### 13 はたらく [編集委員:杉村 和美]

進路選択／キャリア発達／青年期の延長／学校から仕事への移行／フリーターとニート／ワーク・ライフ・バランス／働きざかり／時間的展望／レジャー／価値感

### 14 なやむ [編集委員:杉村 和美]

同一性の危機／モラトリアム／自我の強さ／親子間葛藤／自尊心／自己へのとらわれ／摂食障害／いじめの発達への影響／リスクと自立／カウンセリングを通じての変化／大学生の発達支援

### 15 ささえる [編集委員:長崎 勤]

ADHD・LD児者の発達支援／ダウン症児者の発達支援／自閉症スペクトラム障害の発達支援／視覚・聴覚障害児者の発達支援／障害児のきょうだいへの発達支援／教育分野におけるユニバーサルデザイン／虐待を受けた子どもの発達支援／災害にあった子どもの発達支援／キャリア支援／貧困への支援

### 16 うごく [編集委員:長崎 勤]

共鳴動作／運動発達／フォーマット・協同活動／保育とうごき／幼小移行:小1プロブレム／小中移行:中1プロブレム／災害避難／移民・外国人子女／ひきこもり／障害者の就労支援

### 17 あらわす [編集委員:子安 増生]

表象／ふりと模倣／共感性／メンタライジング／表情／相貌的知覚／情動／あざむき／表示規則／自己効力(感)

### 18 なる [編集委員:佐藤 有耕]

新生児期・乳児期・幼児期／児童期／青年期／中年期／老年期／発達観・発達の原理／発達加速現象／思春期／アイデンティティ／おとなになること

### 19 ある [編集委員:岩立 志津夫]

ビッグファイブ／レジリエンス／外傷体験(トラウマ)／気質と個人差／進化／ジェンダー／生得性(領域固有性)／発達の壁／発達持続／発達段階

### 20 くらべる [編集委員:尾見 康博]

社会的条件と心理的条件／文化心理学と比較文化心理学／異文化比較／異文化間教育・多文化教育／健常と障害／理想自己と現実自己／内集団と外集団／きょうだい／ヒトと動物／ヒトとロボット

### 21 うしなう [編集委員:能智 正博]

親の離婚／不妊・中絶／パートナーとの別れ／失業・リストラ／ハートロス／中途疾患／犯罪被害／被災／移民・難民／自殺・死別

### 22 はかる [編集委員:村井 潤一郎]

発達をはかる／知能をはかる／性格をはかる／感情をはかる／記憶をはかる／ことばをはかる／学力をはかる／態度をはかる／脳機能ををはかる／環境をはかる

### 23 しらべる [編集委員:尾見 康博]

面接法／観察法／質問紙調査法／実験法／ネット調査／史資料分析／事例研究／談話分析／縦断研究と横断研究／質的研究と量的研究

### 24 うたえる [編集委員:岩立 志津夫]

ジェンセニズムの功罪／教育政策／研究倫理／子育て政策／社会政策／社会的責任／発達心理学と差別／発達心理学の未来／幼保一元化(子ども園)

### 25 てをくむ [編集委員:岩立 志津夫]

国外・国際学会／心理学資格／臨床発達心理士／隣接科学(認知科学)／隣接国内学会



妊娠・子育てから終末期ケア・長寿研究に至るまで関心の高い情報を網羅!

# 発達心理学事典

日本発達心理学会 編/[編集委員長] 氏家 達夫 名古屋大学  
A5判・600頁 定価21,000円(本体20,000円) ISBN978-4-621-08579-0

## 本書特色

- 全項目2ページ(見開き)完結の読みやすい構成。
- 200名超の執筆者は発達心理学および関連領域の実力者。
- 学生、社会一般の方でも読みやすく、また専門家にとっても読み応えのある内容。
- ここ四半世紀の「発達心理学」の急速な進展を一望できる。
- 乳児期～青年期の発達はもちろん、中年期以降の変化、高齢期の問題なども収録。
- 従来の切り口とは一線を画する「和語」によって章分けすることで、発達心理学という学問の新しい捉え方(見方)を提示する。



## カウンセリング実践ハンドブック

編集代表 松原達哉 編集協力 日本カウンセリング学会

A5判・784頁 定価15,750円(税込) ISBN978-4-621-08301-7

日本カウンセリング学会の粋を集め、ケーススタディに力点を置き、カウンセリングの理論や技法をいかに実践するかを集大成。実践領域を、教育、産業、医療、司法・矯正、福祉・高齢者に分け、具体的事例をまじえてわかりやすく解説。

## ストレス百科事典 精神医学的・臨床心理的・社会心理的・社会経済的影響

ストレス百科事典翻訳刊行委員会 編 日本ストレス学会 編集協力 下光輝一 編集委員長

B5・928頁 定価18,900円(税込) ISBN978-4-621-08624-7

個人の問題ではなく、地域、社会、ひいては国の経済的側面にも大きく影響するストレスを医療・保健領域、福祉領域、産業・労働領域など、ストレス科学に関するあらゆる知見を集大成、多領域に携わる人の必携のレファレンス。

## 産業・組織心理学ハンドブック

産業・組織心理学会 編 A5・582頁 定価13,650円(税込) ISBN978-4-621-08118-1

理論から応用実践に至るまで、産業・組織心理学分野における国内外の最新研究成果を広く盛り込み、体系的かつ平易に解説。分野の全体像を理解するための指針として、学生、研究者、実務担当者にわたって幅広く活用できる内容。

## 応用心理学事典

日本応用心理学会・編集委員長 岡村 一成 編 A5・692頁 定価21,000円(税込) ISBN978-4-621-07807-5

細分化された現代心理学の諸分野の研究水準を浮き彫りにし、今後の研究活動に有効な情報を提供。心理学に関心を持つ方が心理学に対する偏った知識を無くし、社会においてさまざまな問題解決に役立ち、読み物としても楽しめる待望の中項目事典。

## 心理臨床学事典 日本心理臨床学会 編 A5・750頁 定価15,750円(税込) ISBN978-4-621-08408-3

心理臨床学等を中核に隣接領域や関連領域をカバーしながら、「心理臨床とは」「教育」「医療」「福祉」「司法・矯正」「産業」「地域・文化」「家族」「被害者支援」「研究」の10分野の大項目、1項目に対し2ページで解説。

## 社会心理学事典 日本社会心理学会 編 A5・702頁 定価21,000円(税込) ISBN978-4-621-08107-5

「社会」の中での人の行動について研究する学問——社会心理学は、幅広い研究領域を含む学問であり、日常生活の中で起こる人の心と行動の「不思議と仕組み」について考察する学際的学問でもある。様々な分野で注目される研究最前線を解説



関連書

丸善出版株式会社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17 神田神保町ビル6階 営業部TEL(03)3512-3256 FAX(03)3512-3270  
<http://pub.maruzen.co.jp/>

丸善出版：発行 FAX03-3512-3270

発達心理学事典 定価21,000円(税込) ISBN978-4-621-08579-0 \_\_\_\_\_冊

取扱店

お名前

ご住所 〒

TEL

注文書

\*ご注文をいただいた個人情報、書店、取次(問屋)・弊社間で商品手配(新刊情報)を目的のために利用させていただきます。